

あ と が き

副校長 北 島 健 司

研究は、「過程が大切だと言うが、成果は、それ以上に大切である」と言われます。また、「よい研究過程であれば、よい成果が得られる」とも。

本校では、平成10年度より「真の子どもの学びを求めて—新教育課程にむけて—」という研究主題を掲げ、実践研究に取り組んでまいりました。

それは、従来の各教科と道徳・特別活動を主領域としながらも、そこで学習する事柄に対する分析だけではなく、子どもが発揮する特性の分析、それに対する支援や学習環境の整備など、いくつかの異なった観点から学習をとらえ『学習群』としてデザインしました。

そして、平成13年度から3年間、本校独自の総合的な学習領域として『みらい』を立ち上げ、子どもたちの真の学びを追究してきました。学習主体である子どもが、自らの求めで自然で具体的な学びを展開し、対象に働きかけながら自分との関係をつくりだしていきました。私たちは、そこに「学習文化の創造」を認めたのです。

私たちの願いは、「自己実現をめざす人間」の育成にあります。子どもたち一人一人が自分自身の問いをもち、それを自分の力によって解決し、さらに高い問いへと導く力を育むような実践研究を積んでいきたいと考えています。

本年度は、研究主題を『「意味と内容」がひろがる学びの創造—まなざしの共有によって—』と設定し、「子どもの学びとは」「共に学ぶとは」に視点を当て、子どもたちの共生・共創の喜びを探ってまいりました。

例えば、6年社会科では、子どもたちが、八代将軍吉宗の足跡や生き様と自分たちの今とを比較することにより、過去・現在・未来をつなぎ合わせ、一人調べによる自分の思考や歴史イメージと友だちのそれらを絡めることにより、躍動的な歴史ドラマにまとめました。

ここに「まなざしの共有」による「学びの創造型の学習」が成立したといえるのではないかと考えています。

子どもたちの「学び」を中心にすえ、迷いつつ歩んできた一端が、この紀要です。ご高覧いただき、ご教示賜りますようお願い申し上げます。